

◆関連会議

平成 28 年度普及事業検討会

水産海洋技術センター 久保弘文

平成 29 年 3 月 16 日（木）に 28 年度普及事業検討会が、水産会館 4 階において、開催された。内容としては当センター普及事業結果と 29 年度同計画が漁業団体代表他 10 名の委員から全会一致で承認された。

平成 28 年度水産業改良普及事業結果については、シンポジウムとして、サンゴ・資源管理勉強会やアーサ生産者会議の開催、マリンカレッジとして、宮古地区伊良部島における漁業士 5 名と普及指導員による佐良浜小学校教員への魚捌き講習会、流通加工対策事業として、与那原漁協ヒジキじゅーしーの素開発の商品化等が報告され、委員からは多方面にわたる取り組みを評価する意見が多く出た。

平成 29 年度水産業改良普及事業の計画案については後者育成対策として副読本を漁連と協力して作成すること、

新技術定着試験として中城等ヒトエグサ新規漁業権設定に向けた養殖試験の取り組み、資源環境対策として、シラヒゲウニ親ウニ畜養やナマコ資源管理調査等が了承された。

話題提供では水産資源利用拡大事業による東支那海でのケンサキイカ試験操業を漁業士会の協力の下で実施し、新規漁船漁業対象種としての芽出しができたこと、モズク異物除去機が効率よく、ヨコエビ類を選別除去できたこと等が報告された。特にイカ漁撈やモズク洗浄の映像が紹介され、委員からは今後の現場展開に期待する意見が多かった。

最後に委員からは普及員数の少なさについて、特に本部駐在の削減案が行管から提示されたことについて、憤る意見がでた。



図 1
普及事業検討状況